

HONOLULU CHRISTIAN CHURCH <HCC> SINCE 1932

ホノルルキリスト教会員ガイドブック



ホノルル・キリスト教会日本語部

6/19/2022

目次

- I. 序文
- II. 教団、教会の歴史の特色
- III. 教会の信仰告白、信条
- IV. 教会声明文（ミッション・ステートメント）
- V. 教会牧会理念
- VI. 教会組織
- VII. 各ミニストリー一覧
- VIII. 奉仕について
- IX. HCC ファミリーミーティングについて
- X. 教会生活 5 つの鍵とキーホルダー

I. 序文

「あなたがたが、わたしを選んだのではありません。わたしがあなた方を選び、あなた方を任命したのです。それはあなた方が行って実を結び、そのあなた方の実が残るためであり、またあなた方がわたしの名によって父に求めるものは、何でも父があなた方に与えるためである。」
ヨハネ福音書 15 章 16 節

教会とは、主イエス・キリストに呼び集められた者たち（エクレシア）の集まりであり、私たちは、主イエスの呼びかけに応じて、今ここにいます。この出会い、このタイミング、全てが神さまのご計画であることを信じます。私たちが今、ホノルル・キリスト教会（以後、HCC）に呼び集められたのは、神さまの必然です。

ホノルル教会は、1932年に正式に非営利団体として登録されました（当時ハワイは、州ではありませんでした）。1942年には、英語部も発足されました。

HCCは、非常にユニークな教会です。

日本から見て海外にある日本人教会です。米国に在りながら、日本語で礼拝を捧げ、日本語で聖書を読み、日本語で交わる集まりです。

日本語部と英語部という二つの部から成り立っている教会です。お互いの言語、文化、習慣の違いを尊重し合い、主から託された共通の使命とビジョンのために主に仕えます。私たちは、この召命に基づいて、教会形成と宣教に取り組んでいます。

この『教会員ガイドブック』は、信条、ミッション・ステートメントをはじめ、奉仕一覧、クラス一覧など、実際の教会員生活に必要なことが収められています。先に発行された「教会便利帖」とも合わせてご利用ください。

またこの『教会員ガイドブック』は、「新しいぶどう酒は、新しい革袋に」（マタイ 9 章 7 節）とあるように、教会が成長していく過程において常に刷新されていきます。HCCがこの世に存在する限り、その時において最善のものとして改訂を続けていきます。

II. 教団、教会の歴史&特色

●特色

日本人の手による、日本人のための自給自立の教団

ホノルル・キリスト教会は、One Mission Society Holiness Church in North America(東洋宣教会北米ホーリネス教団)に属しています。この教団は、1921年に創設され、戦前からアメリカに存在する日本人教会としては、日本人の手によって自給自立の教会として建てられた唯一の教団です。他の大多数の日本人教会は、アメリカの教団、教会の外国人伝道の一つとしての日本人宣教の働きとして建てられていますが、私たちの教団の特色の一つは、日本人が、日本人の宣教のために建てた教会であるということであり、ホノルル教会は、1932年に創立され、この教団に属する教会です。

信徒の信仰によって建てられた教団

教団創成期の特色は、熱心な祈り、伝道への情熱、聖化への渴望、御言葉信仰、そして信仰に燃えた信徒によって建てられたということです。この信徒の信仰から始まったという歴史的事実は、私たちの教団の特色の一つです。

ホノルル・キリスト教会は、タンタラスの奇跡によって生まれた教会

1929年、3名の結核患者がレアヒの療養所を脱走し、タンタラス山中における三日三晩の断食祈禱を敢行しました。その結果、奇跡の癒しを経験しました。そのニュースを聞きつけた人々が教会に来たことが、ホノルル教会誕生につながりました。ホノルル・キリスト教会は、このように、熱心な祈りを通して神の奇跡を体験するという、純粋な信仰のあり方を継承しています。(この出来事は当時の新聞に掲載されました。)

ホノルル・キリスト教会はハワイにある

ホノルル・キリスト教会は、日本から視て海外にある日本人教会です。つまり母国から離れている人々が集うという特殊な状況下にある教会です。それゆえに、「日本」という事を強く意識します。日本語で礼拝し、日本語で聖書を学び、祈り、日本語で交わる教会です。

またハワイという太平洋の真ん中に位置する島に存在し、世界の特に日本人の憧れの島でもあります。このハワイの歴史、位置、日本人にとっての価値を考える時に、ホノルル・キリスト教会は、福音の基地として、和解と癒しの地として、日本人の癒しと回復の地としての賜物が与えられているのです。

●教会の歴史

1926年7月

カカアコミッション（現在 Moanalua Garden Missions Church）の日語伝道を助けるために、ロサンゼルスから平野俊雄師が来布。ミッションの働きと同時にワイアラエの黒田ファイ宅にて家庭集会を開始また肺結核患者のレアヒ療養所（現在の KCC の隣に建物が現存）でも聖書の学びをスタート。

1929年5月4日

平野師の伝道によって、レアヒにある結核療養所においても大勢の人々が救われた。その中の3名（David Nakata, Anthony Park, Sidney Hirano）は、療養所を脱走し、病の癒しを求めて3日3晩タントラス山中に籠り断食祈祷に専念、奇跡的に完全に癒されて下山した。そのニュースは当時の人々に大きなインパクトを与え、信者になる者が続出したのである。その時、同じく入院中の肺結核患者、丹治英雄兄は、この3名を祈りつつ見送ったのであるが、後に本人も癒しを経験したのである。

1929年11月

ロサンゼルスより葛原定市師を迎え特別伝道集会を持ち、参加した10数名が中心となり、翌月、黒田宅でワイアラエホーリネス教会が、また丹治英雄兄を中心としてワヒアワ・ホーリネス教会が誕生する。さらに1930年には、原ロステファン氏の尽力によりハワイ島ヒロにも伝道所が開設された。

1931年9月

ワヒアワ・ホーリネス教会に霜鳥武夫師が牧師として就任した。

1932年5月

ワイアラエホ・ホーリネス教会はモイリリ地区の2591 S. King St. に集会所をリースして移転、新しくホノルル・ホーリネス教会の名で州政府に登録すると同時に、カカアコミッションを辞した平野俊雄師を主任牧師として迎え、独立伝道を開始する。7月には会堂が建築されている。

平野牧師は、ホノルル教会の初代牧師となり、1932年～1934年まで奉職された。平野牧師は、その後グレイス・バプテスト教会の牧師となり、1941年から1971年に引退されるまでオリベット・バプテスト教会の日本語部の牧師として奉職された。引退と同時に、オ

リベット教会在職中から持たれていた聖書研究会を母体としてパールシティ・バプテスト教会日本語部が誕生した。平野師は1975年10月23日、天に召されるまで奉職された。このように、ホノルル・キリスト教会の産みの親とも言える平野師は、オリベット教会、パールシティ教会の誕生にも関わっているためである。

1936年

福田吉郎師が日本語部牧師に就任。その後、日米開戦を迎えて加州の教会は受難の時を迎えるが、ハワイでは集会を継続することができた。福田師は、1954年まで奉職された。

1946年

University St. の拡張計画のため、教会は Alexander と Bingham の角に 移転を余儀なくされる。

1949年

これまでに大きく成長した英語部の初代牧師としてキルボーン・アーネスト師を迎え、本格的な英語礼拝が開始される。

1952年

H-1 フリーウェイ建設のため教会は再度移転を余儀なくされ、Makiki 地区の 1422 Heulu St. に移る。この間、日本語部は石野幹夫牧師へ、英語部は常石アーサー牧師、黒田章牧師へと交代し、やがて手狭になった教会堂のために新しい場所を探し始める。

1959年6月

祈りは応えられ、紆余曲折の末 Manoa 地区の現在地に \$75,000 で教会堂を購入、翌年3月に献堂式を執行する。英語部は戸田ジェームス牧師、原ビル牧師へと交代。

1969年3月

現在の礼拝堂が完成。9月に日本語部牧師として細見剛正師が赴任し、翌年 KOHO ステーションからラジオ福音放送を開始する。

1972年9月

当教会出身の安次富ケネス師が英語部牧師に就任、1974年にパールシティハイランドに開拓伝道を開始、後にハイランドホーリネス教会（現ウエストオアフキリスト教会）の誕生を見る。

1981 年

日語部牧師として中野雄一郎師が就任、同年 8 月、新教育館の起工式が持たれ、\$630,000 の費用はすべて献金で備えられ、翌年 4 月 18 日に献堂式が執行される。その後、英語部は戸田ジョージ牧師、比嘉ラッセル牧師と交代した。

1982 年 4 月

新教育館建築に合わせ、それまでの教会名：ホノルル・ホーリネス教会 (Honolulu Holiness Church) を改め、ホノルル・キリスト教会 (Honolulu Christian Church) に変更することを決定された。

1996 年～2022 年

日語部は 1996 年に鈴木栄一牧師が就任、翌 1997 年から 2000 年まで中村裕二師を副牧師に迎えた。2002 年 7 月に 70 周年創立記念会がアラモアナホテルで持たれた。

2005 年 4 月

関真士牧師を副牧師として迎えた。2007 年に鈴木牧師が引退されたのを機に、関真士牧師は教団本部より任命を受けて、ホノルル教会主任牧師として就任した。

2017 年 11 月

高木牧人副牧師を迎え、牧師二人体制となる。

2021 年

高木牧人牧師は、ロサンゼルス・ホーリネス教会へ転任した。

* なお東洋宣教会北米ホーリネス教団の歴史に関しては、膨大な量になるために、本ガイドブックに収めることは出来ないが、随時、教会図書において閲覧可能である。

Ⅲ. 教会の信条

ホノルル・キリスト教会は、「使徒信条」と共に、教団が憲法において告白する信仰告白を信じる。教団の憲法と細則については、随時、教会事務室、及び、教団ホームページ (www.omsholiness.org)にて閲覧が可能。

—使徒信条—

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にてられ、陰府にくだり、
三日目に死人の内よりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、
かしこより来たりて、生ける者と死にたる者とを審きたまわん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命を信ず。 アーメン

—ホノルル・キリスト教会 信仰告白—

A. 三位一体の神

神は、永遠に父と子と聖霊の三つの位格において実在する。この三位の神は永遠で、唯一の神であり、聖性、属性、完全において全く同一である。

1. 父なる神

全能の父なる神は、創造者、保持者、宇宙の支配者にして、その本質は霊であり、その属性は聖であり、性格は愛であられる。

2. 子なる神、イエス・キリスト

永遠の御子イエス・キリストは、聖霊によって宿り、処女マリアより生まれ、かくして一人格の中に真の神性と人性を有し、神と人との間の唯一の仲保者である。彼は、救いを完成するために完全に義を成し遂げ、罪なき人生を送り、神の正義を充足し、世の罪のために自らを代償的犠牲として捧げられた。彼は、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、死んで葬られ、三日目に死人の中より肉体において復活され、天に昇り、そこで栄光の状態において、信徒のために執り成しておられる。彼は再び自ら、見える姿において義をもって世界を裁き御国を樹立するためにおいでになる。

3. 聖霊なる神

聖霊は、神の三位であられる。聖霊のお働きは、神のことばを通してキリストを啓示し、信者の新生と聖化において救いを全うし、偉大な任命を全うさせるために教会を導き力づけ、罪と義と審判とについて世の人の目を開くことである。

B. 聖書

神のことばであり、旧約と新約聖書よりなる聖書は、神の靈感を受けた啓示であり、またその原本において誤りがない。それは信仰とその実践において最高にして最終的権威である。

C. 人間

人間は神の像に創造されたが、神に背き、その結果、神からの分離である霊的死を招いた。人間は、神の恵みにより、キリストとその贖罪を信じる信仰により、また聖霊の働きによってのみ霊的死の状態より救われる。信者の霊的成長と成熟は、神の御霊により、信仰者の献身的、意識的行為によって始められた聖霊の内住によって生じるのである。

救い

救いは、イエス・キリストの血が流されたことによる神の恵と愛にのみ土台している。この救いは、十字架の上における救いのみ業のゆえに、イエス・キリストを主とし救い主として信じる信仰の恵によってのみ受け入れることが出来る。救いを通して、信仰者は罪が赦され、神の子となる。そして、敬虔な信仰生活と奉仕を送るために力づけられ、また永遠の命を得、天国にて神との関係をとこしえに与えられ、神に怒りと地獄から救われる。

D. 教会

教会は、主である救い主なるイエス・キリストを信じる信仰の恵によって救いを受け、教会の頭であるイエス・キリストのもとに、一つの体として結び合わされたすべての者によって成り立っている。教会の主目的は、第一に神を礼拝することである。また、神のことばの戒めにより、信仰者の交わりにより、洗礼と聖餐を執行することにより、そして愛の奉仕と福音の分ち合いにより、すべての国民を弟子とするために招集されている。

IV. 教会声明文（ホノルル・キリスト教会日本語部ミッション・ステートメント）

ビジョン

世界中に神のアロハを伝え、全ての人々を神の OHANA (家族) へと招き、全ての人々が神の素晴らしさを知るようになること。

ミッション（キャッチフレーズ） 神のアロハを思いっきり伝えよう！

基本理念（Core Values）

1. 神のアロハは、情熱を持った礼拝と祈りに現れる。

礼拝は神に向かって表現するものであり、人に向かってのコンサートではない。すべての違いを乗り越えて、神の家族が一つになって神に出会う時である。私たちは様々な文化、世代によって異なる礼拝のスタイルを尊重し、礼拝、賛美、祈りを通して、救われた喜びと感動を表現する。

2. 神のアロハのメッセージは、聖書のみに基づいたものであり、イエスの福音の中心的メッセージである。

私たちの信仰と人生は聖書の御言葉にのみ基づいている。御言葉によってのみ、私たちは神、福音、そして神の愛を知ることができる。従って、私たちは、教会の教理を尊重し、御言葉を語り、教え、学ぶのである。

3. 神のアロハは、宣教と伝道によって広がるものである。

神の祝福は、聖霊の力によって野火のように広がっていくものである。私たちは、神の愛を周囲の人々に伝え、その愛を実践するという責任と祝福を神から与えられている。

4. 神のアロハは、交わりにおいて最も深く体験される。

私たちは一人では成長できない。神の家族としてお互いに愛し合うことを学び、信頼関係を築くことで成長するのである。そのためには、少人数のグループにおいて、互いに愛し合うことを実践することが必要である。

5. イエス・キリストに従う者として、学び、成長する。

私たちのゴールは、イエス・キリストに従う者となることである。私たちは、聖霊の助けと他の人々の助けによって、より深く神を知り、聖なる新しい人生を歩み、力強いキリストの証人となり、神の愛をこの世に示すのである。そのために、キリストに従う者として成長することを求める。

★神のアロハとは、神の祝福の総称として用いている。

V. 教会牧会理念

関係における教会形成

牧会理念とは、牧師がどのような理念に基づいて牧会をしているのかを明らかにしたものです。牧師とは、神が教会に与えた職務の一つであり、その働きを「牧会」と呼んでいます。

この牧会理念は、HCCのミッションステートメントと連動し、その実行、実現のために牧師がどのような理念をもって牧会にあたるかを明らかにしたものです。

「イエスは答えられた。一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにはありません。」マルコ12章 29 節～31 節

「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全なおとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばされたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

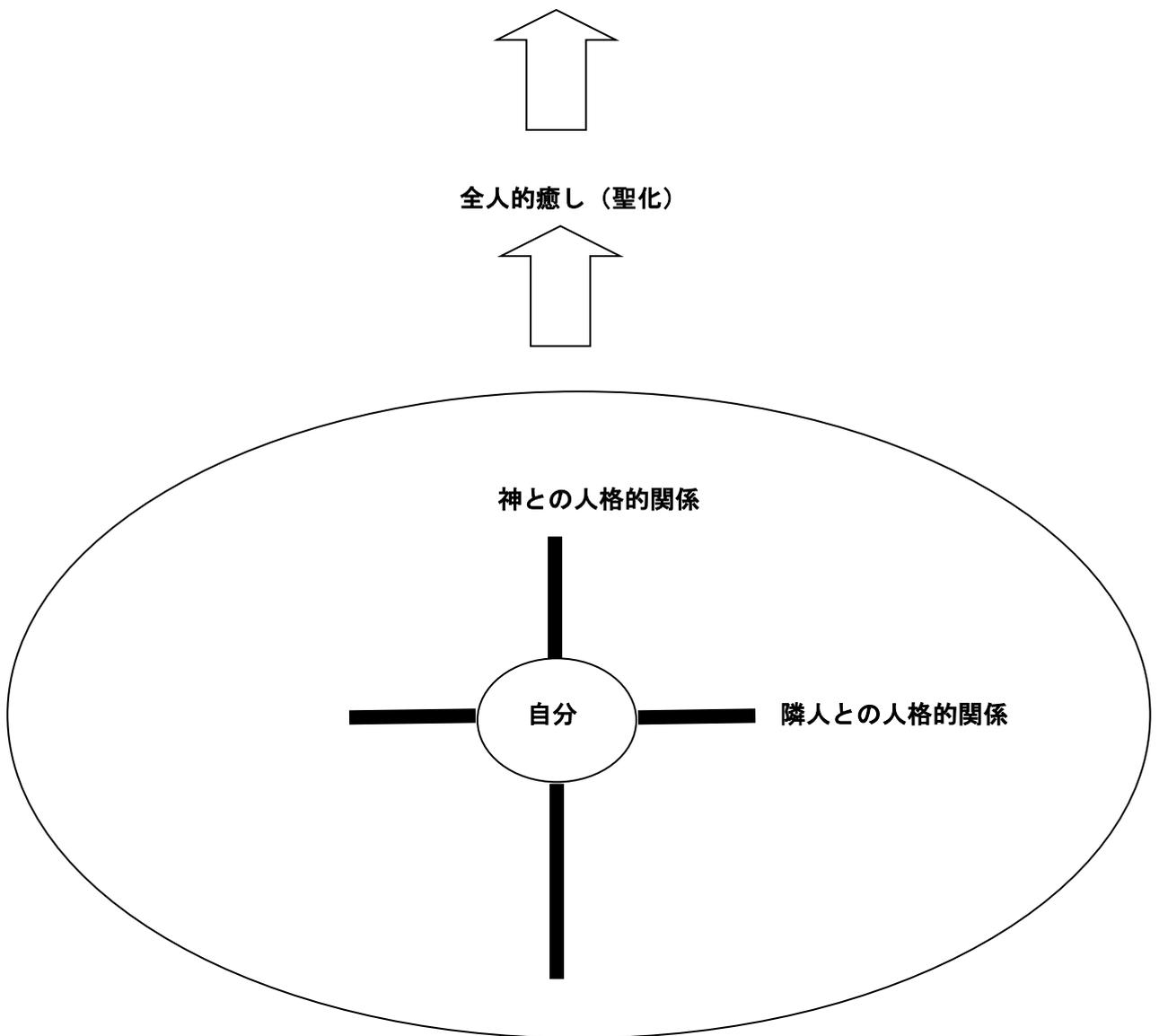
エペソ 4 章 11 節～16 節

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。 ガラテヤ書 5 章 22, 23 節

HCC を牧会する上で、特に大切にしていることは「関係」です。関係には「機械的關係」と「人格的關係」があります。私たちが持ちたいのは「人格的關係」です。詳しくは『靈的成熟を目指して』（関真士著）をご参照ください。

私たちは、癒された自己を主体として、神との関係、隣人との関係において成長していきます。これらの関係における成長が、全人的癒し（聖化）をもたらし、また継続させるものとなります。さらに、この歩みの中にある時に、御霊の実が結ばれ、宣教の業へと広がっていきます。

宣教 —キリストの証人として—



●神との人格的關係 **縦**

全身全霊で神さまを愛します。

神との個人的人格關係。御言葉に聴き、自分の言葉で応答します。

●隣人との人格的關係 **横**

隣人を愛します。

教会における隣人との關係。愛と真実な交わりを持ちます。

●自分自身の人格の確立 **結び目**

自分自身を愛します。

神の愛を受ける主体としての自分。隣人を愛する主体としての自分。その自己の確立のために、まず神が愛したように自分自身を愛します。

●全人的癒し

3つの愛の關係における歩みが、全人格的癒しに結びつきます。

全人的癒しとは、「神が人間に意図された生き方（神を愛し、自分を愛するように隣人を愛すること）が出来るために、人間の罪がもたらした、身体的、精神的、靈的な傷が取り除かれることです。同時に、3つの愛の關係は、私たちをキリストの似姿に変えていきます。その変えられていく過程の中で、御霊の実が結ばれるのです。

また全人的癒しという言葉は、聖化と同義語です。

●宣教 —キリストの証人として—

全人的癒しを通して、御霊の実が結ばれます。実とは、食べるため、また種となるためにあります。御霊の実は、信者同士が食べ合い、また未信者の方々に食べていただくものです。その実が種となって救いの実を結びます。教会の全ての営みは、宣教に帰結し、宣教において結ばれた救いの実は、全人的癒しのプロセスに入ります。これは循環するのです。

【教会成長について】 II コリント 3 章 18 節

* 教会成長とは、キリストのお姿に変えられていくこと。

- キリストの体として成長すること。それは、キリストの証人としての働きを十分に果たすため。
- キリストの宮として成長すること。それは、聖霊の臨在に満ちていること。
- キリストの花嫁として成長すること。それはキリストの再臨に備え、聖化されること。

* 成長の指標

- この世にキリストを証しすることにおいて成長しているか？
- 神を愛し、自分を愛するように隣人を愛することにおいて成長しているか？
- キリストのお姿に変えられることにおいて、御霊の実が結ばれているか？

【教会形成について】 ヨハネ福音書 21 章 11 節

破れない網 としての教会形成

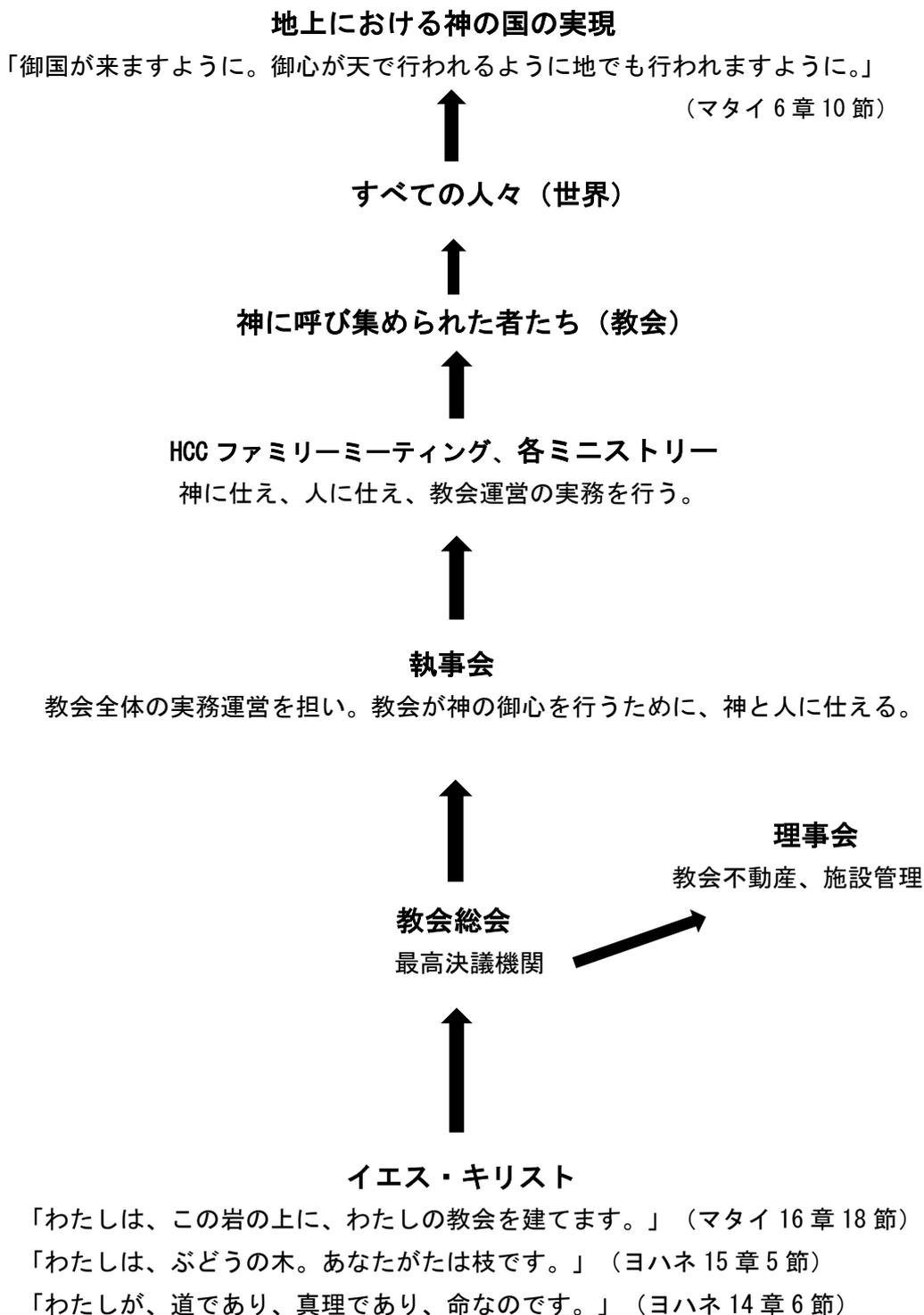
どんなに大漁の魚が取れても「網は破れなかった」。そのように、どれだけの多くの人が、どのようなタイプの人が、どれだけ教会に加えられても「破れない網」として教会が強められていきたいのです。

網とは、縦の糸と、横の糸の組み合わせです。

教会の強さとは、癒された自己を主体として、**縦糸**=神との関係の強さ、**横糸**=隣人との関係の強さ、その両者が堅く結び合わされていることです。

「破れない網」とは、伝道においてその力を発揮し、さらに救われた者たちが、全人的癒しの恵みに歩み続けることが出来るように守り導くものとなります。

VI. 教会組織構造



■聖書は、教会の普遍的、絶対的な組織構造というものを指示していない。従って私たちは、教会の置かれている時代、社会、文化、さらには教会の賜物、使命、歴史を総合的に理解し、その時に最善と思われる組織構造を持つ。この組織構造は、常に刷新され得るものである。

VII. 各ミニストリー 一覧

(2022年6月現在)

- ◆**執事会** 教会の実際の運営を担う、意志決定機関。
2021年度執事：今井賢司（執事長）、トーマス玉川、谷戸一敏、川口剛志、ペリー紀子、後前門美恵子、関真士（牧師）
毎月第二主日に、執事会が開催されている。
- ◆**理事会** 教会の不動産、施設管理を担う。日英合同。
2021年度理事：日本語部 Tom Izon（理事長）、Kevin Hakoda、トーマス玉川、谷戸一敏、関真士（牧師）
英語部 Eldon Ahue, Nora Watase, Harvey Chung, Edwin Kamisato, Lee Akamine, Laurie Hirata, Randal Young (牧師)
毎月第三木曜日に、理事会が開催されている。
- ◆**HCC ファミリーミーティング**（別頁参照） 毎月第一主日に開催されている。
- ◆**日本語部会計** 会計業務全般を担う。
- ◆**各ミニストリー**
- 礼拝部**
 - * 礼拝 Teck チーム 音響、配信を担当している。
 - * 受付
 - * 賛美チーム 毎週の礼拝賛美のリードを担当している。
 - * 聖書朗読
 - * 通訳
 - * シャロン・ゴスペルフラチーム フラで神を賛美する。
 - * 讚美画 絵画で神を賛美する。
- オフィス（事務局）**
- ハッピープロジェクト** 奉仕全般をコーディネートする。

- キッズ・サンデースクール 大人の礼拝と平行して持たれている。
- キッズクワイヤー
- ユース&カレッジ
- ミュージック・ミニストリー バンド形式の集まり。
- 花組 629 礼拝堂の花、レイの作成など。
- パステル絵画クラス
- HCC ディヴォーションブログ 毎日更新。現在7人が執筆している。
- 「みことばを学ぶ会」 ハーベストタイムミニストリーズ（中川健一牧師）のテキストを使用している。

- 水曜日祈禱会
- 祈りのチーム 特別な祈りの課題、緊急の祈りを担当している。
- 霊的成熟のための学び会 Discipleship の学び。
- 各家庭、地域における集まり。随時、持たれている。
- メンズフェロシップ 男性の集まり。
- ライフサポート 実際的な生活のヘルプが必要な方をサポートする。
- ウェディング・ミニストリー ウェディングを通して、宣教の機会とする。
- リバイバル・プロジェクト 教会の増改築のプランを立てる。
- 有志主催による、PONO クリスチャン・サーフィングミニストリー。
Hikingoooo! (ハイキングミニストリー)。
- その他 名称は付かないが、様々な集まり、学び会、ミニストリーがある。

VIII. 奉仕について

ここで取り上げる「奉仕」とは、特に教会活動に対する働きのことを指しています。ただし原則的には、奉仕する＝仕える、という事は、私たちクリスチャンの生き方そのものです。ですから、教会の中でも、外でも、私たちが遣わされている所で生きる事、行う事は、有給、無給に関わらず、すべて奉仕なのです。「奉仕」とは、仕えるという生き方なのです。

ホノルル教会では、奉仕をしたい方は、様々な奉仕の機会がありますから、その賜物を十分に活かして活動していただきたいと願っています。

同時に、様々な生活状況、健康問題の中で、奉仕をしたくても出来ないという方は、一切の気遣い、罪悪感（奉仕できなくてすみませんという感覚）を持たないでいていただきたいと願います。

奉仕をする者も、奉仕をしない者も、共に平安の内に、共に主に仕える者たちでありたいと願います。

その上で、教会活動における奉仕について説明します。

* 奉仕とは、仕える生き方＝主イエスの生き方。

これは、主イエスの模範に従うこと。

「人の子は、仕えられるためではなく、仕えるために来た」（マルコ 10：42～45）

「あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」（ヨハネ 13：1～15）

「仕える者の姿をとり」（ピリピ 2：7）

* 仕える心を持つ。

相手の必要のために喜んで自らを捧げる。互いの足りない部分を補い合う。

「偉くなりたいた人は仕える者になりなさい。人の先に立ちたい人は僕になりなさい。」

（マルコ 10：43、44）

「自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい。」（マタイ 7：12）

* 報いは主から来る。

奉仕に対する報いは、人からの評価や称賛ではない。主ご自身から与えられる。

ヨハネ 2：9 「水を汲んだ僕は知っていた」

マタイ 6：20 「宝は天に蓄えなさい」

* 賜物を活かして。

キリストの体の一器官として、共に奉仕し合う時に、キリストの教会が建て上げられる。

1 コリント 12 章～14 章参照。それぞれに与えられた賜物に応じて奉仕する。

*** 奉仕の目的**

奉仕の目的は、キリストの体を建てあげること。(エペソ 4 : 12)

目的のために、自らを捧げる。奉仕は、自己実現の場ではなく、神の御心を実現する場である。

*** 奉仕者としての成長**

奉仕をすることによって、様々なことを学びながら、キリストのお姿へと成長していく。その成長の過程を大切にしていく。

*** 奉仕を断る、しないという選択**

奉仕は、喜びと感謝から生じた自発であることを大前提である。奉仕を頼まれた場合において、もし、「やらされている」という感覚がある時は、奉仕をしない事が大切。

また、奉仕をしたいけれども、時間が取れない、健康的に無理がある等々の理由がある時には、頼まれても事情を説明して断る事が大切。

自分から奉仕をしたいと願っていても、そこに「やらないと迷惑をかける」「自分がやらなければ」といった過度な気遣いや過度な責任感。あるいは、自分の承認欲求を満たすために行うなら、その奉仕はしない方がいい。なぜなら、奉仕をすることで、承認欲求は満たされることはないのだから、奉仕に疲れ果ててしまうから。

奉仕は、奉仕自体が目的ではなく、キリストの教会を建て上げるためにする事。優先順位を大切に。礼拝を犠牲にしたり、家庭や健康を犠牲にしてまで奉仕は行うべきではない。そのような時は、奉仕を断る、あるいはすでに奉仕をしていたら一時休むことも大切。

★良い奉仕が出来る 要因 ベスト 5

- * 神との個人的な関係を確立している。
- * 仕える心を持っている。
- * 自分の心と身体の状態を知っている。無理をしない。休むことが出来る人。
- * 自分の賜物を知っている。得意、不得意を心得ている。
- * チームで動くことが出来る。個人プレーに走らない。

★奉仕における行き詰まり 要因 ベスト 5

- * 神との個人的な関係の不安定さ。
- * 奉仕を自己実現の場とする。人からの評価、報いを求める。
- * 自分とは違う他者の意見に耳を傾けることが出来ない。

- * ノーと断れない、やらされている感を持つ。
- * 他者とのコミュニケーションが苦手。チームとして動く事が出来ない。

◎ これからの事が出来ているから奉仕が出来る。出来ていないから奉仕が出来ない、という事ではない。そうであれば奉仕できる人は一人もいない。

奉仕をすることで自分の出来ている部分にも、出来ていない部分にも気づくことができる。何もしなければ、何も気づけない。

私たちは、奉仕をしながら、成長し続けることが大切。私たちはみんな、成長途上にある。

IX. HCC ファミリーミーティング

●参加メンバー

HCC ファミリーミーティングは、主にミニストリーの担当者、及び、教会の運営、活動にコミットメントして下さる方によって構成されている。

メンバー制ではないので、誰でも、いつからでも参加することができる。

●HCC ファミリーミーティングの主な目的

お互いが情報を共有することで教会の活動を円滑にするため。お互いの活動の様子を知ること、お互いが補い合い教会が一つの体として機能するため。お互いが祈り合い、励まし合うため。

●HCC ファミリーミーティングの内容

教会の活動（礼拝、各ミニストリー、活動、イベント情報、牧師の予定）について話し合う。

●HCC ファミリーミーティングは、不特定多数の自由参加。

このミーティングには、不特定多数の方が参加するので、提案を承認する権限はない。承認が必要なことは執事会に提案する。また、話し合われたことは公表されるので、個人的な秘匿事項に関しては、取り上げない。

●HCC ファミリーミーティングの開催日

毎月第一主日礼拝後に持たれている。

●HCC ファミリーミーティングへのお招き

教会への質問や要望は、このミーティングで出すことができる。また教会の運営、活動に関するアイデアも、この場で提案することができる。

皆様の参加を歓迎します。

x. 教会生活：五つの鍵とキーホルダー

「神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって、私たちに祝福してくださいました。」
エペソ書一章三節

私たちは、主イエス・キリストを救い主として信じて救われました。
新しい人生がスタートしたのです。
さあ、新しい人生の扉を開きましょう。祝福への扉です。

扉の鍵は「5」つあります。

この鍵は、すでに私たちに与えられています。
さあ、扉を開いて、神の祝福に預かりましょう。



一つ目の鍵 「礼拝」

「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」
ルカ福音書十章二七節

神さまに礼拝を捧げることは、神に造られ、神に愛されている私たち人間のあるべき姿です。一週間は、日曜日から始まります。まず神さまを礼拝してから新しい一週間を始めましょう。日曜日の礼拝を、人生のライフスタイルの中心に置くことによって、人生のサイクル正しく動くようになります。
神さまを礼拝することは、祝福への扉を開く鍵となります。



二つ目の鍵 「交わり」

「もし、私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちの内におられ、神の愛が私たちの内に全うされるのです。」
Ⅰヨハネ四章十二節

教会では、交わりを大切にします。礼拝が縦の棒とすれば、交わりは横の棒です。縦と横が合わさって十字架が出来ます。私たちは、交わりを通して、互いに愛し合うことを学びます。愛は、主の十字架から来ます。私たちは共に主の十字架を見上げ、愛することにおいて成長するのです。
主にある交わりは、祝福への扉を開く鍵となります。

**三つ目の鍵 「奉仕」**

「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい」
I ペテロ四章十節

「仕える」という生き方は、クリスチャンの基本的な姿勢です。普段の生活の中で、人との関わりの中で、また教会の働きの中で、与えられている賜物を活かして仕え合いましょう。教会における奉仕の働きには、是非、積極的に参加しましょう。奉仕をすることによって、賜物が発見され、豊かにされます。そして奉仕を通して、仕える喜びを発見します。奉仕は、祝福への扉を開く鍵となります。

**四つ目の鍵 「献金」**

どうか、この献金を惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意してください。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。

II コリント九章五、六節

献金は、私たちの神さまへの献身の現われです。私たちの献金が、教会の維持経費と宣教活動の経費を賄います。献金を通して、私たちは神さまの働きに参加するのです。喜びをもって、心に決めた通りに献金するなら、必ず豊かな刈り取りがあります。喜びと共に種を蒔きましょう。

献金は、祝福への扉を開く鍵となります。

**五つ目の鍵 「宣教」**

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」

マルコ十六章十五節

教会は、主イエスから使命が託された集まりです。その使命とは、全ての人に福音を宣べ伝えることです。神さまから頂いた恵みを自らの内側で澱ませてはなりません。私たちは、恵みのポンプです与えられた恵みを、この世に向かって流すのです。

この喜びの福音を伝えれば伝えるほど、私たちにも新しい恵みが流れ込んできます。一人でも多くの人に、福音を伝えましょう。

伝道は、祝福への扉を開く鍵となります。

キーホルダー ～5つの鍵を束ねる～

「聖書と祈り」



私たちの存在は、天の父なる神との人格的關係の中で、確立し、成長していきます。すべての活動は、この神との交わりに支えられます。これなくして、いかなる活動も立ち行きません。

天の父との人格的關係とは、

聖書を通して御言葉を聴き、

自分の言葉で祈ることです。

ここから、すべての活動が始まり、そしてまた、ここに帰ってくるのです。「聖書と祈り」の生活を大切にしましょう。